安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00762
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　担 当 者 ：平　　博 司
電話番号　：03-5788-8695　　FAX 番号 ：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質　　ニコチン

製品名　　DL-ニコチン-d_3、S-(-)-ニコチン-2,4,5,6-d_4

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

---

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に関する有害性：	急性毒性（経口）	区分 1
	急性毒性（経皮）	区分 1
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入： ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1(神経系、呼吸器系、心臓血管系、消化管) 区分 3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 飲み込むと生命に危険（経口）

皮膚に接触すると生命に危険（経皮）

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
神経系、呼吸器系、心臓血管系、消化管の障害
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き：

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
適切な保護手袋、保護衣を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
眼、皮膚、又は衣類に付けないこと。
必要に応じて換気装置を使用し、ばく露を避けること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、又は取り除くこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

【保管】
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

---

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分‥　単一の化合物
化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥　ニコチン
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥‥　９５．０％以上
化学式又は構造式 ‥‥‥　$C_5H_4NC_4H_7NCH_3$

官報公示整理番号 …… 化審法：（９）－９９０
ＣＡＳ番号 …… ５４－１１－５
国連分類番号 …… ６．１（毒物）
国連番号 …… １６５４

---

4. 応急措置

目に入った場合 …… 直ちに流水で１５分間以上洗浄した後、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 …… 衣服及び靴等が汚染されている場合は、それらを脱がせた後、接触部位を水と石鹸で十分洗浄する。
吸入した場合 …… 直ちに被害者を毛布等にくるみ、新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。呼吸困難の場合は直ちに酸素吸入を行う。また、呼吸停止の場合は人工呼吸を行う。速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合 …… 被害者に意識のある場合は、コップに１～２杯の水を飲ませ、喉に指を入れて吐かせる。速やかに医師の手当てを受ける。

---

5. 火災時の措置

消火剤 …… 水、炭酸ガス、泡、粉末消火剤
消火方法 …… 適切な消火剤を用いて消火する。周辺火災などで強熱されると、分解して有毒なヒュームを発生するので、火災時は速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火活動上の注意事項 …… 消火作業の際には、空気呼吸器その他の保護具を必ず着用する。

---

6. 漏出時の措置

…… 漏洩した場所の周辺にはロープを張る等して、人の立ち入りを禁止する。作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業をしない。漏洩したものは空容器に出来るだけ回収し、そのあとを砂又は不活性吸収物質に吸収させて、安全な場所に移動する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い …… 接触防止のため、保護眼鏡、保護手袋、防毒マスク等の保護具を着用し、局所排気装置のある場所で取扱う。引火性があるので火気等の着火源との接触を避ける。強酸化剤との接触を避ける。
保管 …… 容器は直射日光を避け、涼しく乾燥した場所で、施錠可能な保

管庫に保管する。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 ・・・・・・・・・・・・・ データなし。

許容濃度 ・・・・・・・・・・・・・ 日本産業衛生学会：データなし。

ＡＣＧＩＨ　ＴＬＶ：５ｍｇ／ｍ３（皮膚）

ＯＳＨＡ　ＰＥＬ：8H　ＴＷＡ　０．５ｍｇ／ｍ３（皮膚）

保護具 ・・・・・・・・・・・・・・・ 防毒マスク、保護眼鏡、保護手袋、保護衣

設備対策 ・・・・・・・・・・・・・ 発生源の密閉化、又は局所排気装置の設置を行う。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 ・・・・・・・・・・・・・・・ 無色の液体。

沸点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４７℃

融点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ －７９℃

比重 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １．００９７（２０℃）

溶解度 ・・・・・・・・・・・・・・・ 水、アルコール、エーテル等に可溶。

蒸気圧 ・・・・・・・・・・・・・・・ １３３Ｐａ（６２℃）

蒸気密度 ・・・・・・・・・・・・・ ５．６１（空気＝１）

引火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ ９５℃

発火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ ２４３℃

爆発限界 ・・・・・・・・・・・・・ 下限：０．７５　ｖｏｌ％　　上限：４．０　ｖｏｌ％

---

10. 安定性及び反応性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 空気中では速やかに褐変する。加熱すると分解し、有毒なヒュームを生じる。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ・・・・・・・・・・・・・ 経口　ラット　ＬＤ５０　５０ｍｇ／ｋｇ

経口　マウス　ＬＤ５０　２４ｍｇ／ｋｇ

猛烈な神経毒であって、人体に対する経口致死量は０．０６ｇである。急性中毒では、よだれ、吐き気、悪心、嘔吐があり、ついで脈拍緩徐不整となり、発汗、瞳孔縮小、人事不省、呼吸困難、痙攣をきたす。

刺激性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 目、皮膚を刺激する。

皮膚腐食性 ・・・・・・・・・・・・ データなし。
感作性 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
亜急性毒性 ・・・・・・・・・・・・ データなし。
慢性毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ 慢性毒性では、咽頭、咽頭等のカタル、心臓障害、視力減衰、めまい、動脈硬化等をきたし、時として精神異常を引き起こすことがある。
がん原性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
変異原性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
生殖毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
催奇形性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。

---

12. 環境影響情報

分解性 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
蓄積性 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
魚毒性 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
その他 ・・・・・・・・・・・・・・・ ｌｏｇＰｏｗ（オクタノール／水分配係数）１．１７

---

13. 廃棄上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 可燃性有機溶剤に溶解し、アフターバーナーとスクラバーを備えた焼却炉の火室に噴霧し、焼却する。

---

14. 輸送上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 容器の蓋は厳重にして、内容物がこぼれないように慎重に取扱う。運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

---

15. 適用法令

労働安全衛生法 ・・・・・・・・ 名称等を通知すべき有害物
毒物及び劇物取締法 ・・・・ 毒物
消防法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 第４類引火性液体、第三石油類水溶性液体
航空法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 毒物類・毒物
船舶安全法 ・・・・・・・・・・・・ 毒物類・毒物
道路法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 車両の通行の制限

---

16. その他の情報

【参考文献】

化学品法規制検索システム　　日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS　　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。